

# 小中学校適正規模等の検討の参考資料【概要版】

## 1. 検討の目的

北杜市立小学校及び中学校におけるより良い教育環境を整備し、充実した学校教育の実現に資するため、**限られた資源を最大限に活用した本市の中学校の教育水準の維持・向上と、持続可能な学校運営の両立を目的として**、中学校の適正規模等の再検討を進めている。

## 2-1. 少子化の状況

北杜市内の中学生の生徒数の将来推計をみると、令和14年時点で665人となり、令和2年の約6割の水準となる。この時、各中学校の学級数は、高根中、長坂中を除く6校で、1学年1学級となる。また、生徒数をみると、明野中、白州中、武川中では1学級が20人を下回る水準になる。

## 2-2. 考え得る選択肢

考え得る選択肢を大きく分類すると、以下の3つとなる。 ※水平統合と垂直統合を組み合わせることも可能

- **現状維持**（8中学校）
- **中学校のみの水平統合**（1～2校程度／4校程度） ※学校数については、様々な選択肢がある
- **小学校・中学校の垂直統合**（施設一体型／施設分離型） ※小・中一貫校または義務教育学校という選択肢がある

## 2-3. 選択肢ごとの教育の可能性

『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)』（中央教育審議会初等中等教育分科会）では、以下のような課題が言及されている。

※少子化の中での学校教育の維持・質の確保／子供たちの多様化／教員負担の増大／デジタル化の遅れ／感染症リスクへの備え

選択肢ごとに生じる状況を整理すると、課題をすべて解決する選択肢はないが、教育環境には大きな違いが出るのがわかる。

- **現状維持** ※審議会では、現状よりも教育水準を向上させ、かつ、持続可能な学校運営ができる方法があるという前提で検討が進められている
- **中学校のみの水平統合** →小学校までの集団が複数合わさる等の特徴がある
- **小学校・中学校の垂直統合** →生徒1人あたりの教員数が多い等の特徴がある ※詳しくは裏面参照

なお、部活動は、選択肢によらず、休日の部活動の段階的な地域移行、合理的で効率的な部活動の推進（合同部活動の推進、ICT活用の推進など）が全国的に進んでいくことが想定される。そのため、審議会において「小中学校適正規模等の検討とは切り離して考えるべき」という意見も出ている。

## 2-4. 学校運営に必要な資源の状況

- **ヒト（教員配置）** →選択肢によらず持続可能

※学級数の減少に伴い常勤教員数が少なくなるが、県費で免許外指導が発生しないよう非常勤教員が配置される仕組みになっている

- **モノ（校舎）、カネ（教育費）** ※R8に市が負担する経費をシミュレーションした

→水平統合と垂直統合（施設一体型）は持続可能、一方で現状維持と垂直統合（施設分離型）には課題が残る

# 参考：選択肢ごとに生じる状況の整理

全国的な課題	北杜市の教育現場の視点	現状維持 (8校)	垂直統合		水平統合		
			施設分離型 小中一貫校 (8中・9小)	施設一体型 小中一貫校 (8校)	中学校 (4校)	中学校 (2校)	中学校 (1校)
少子化の中での学校教育の維持・質の確保	1クラスあたりの生徒数	8校中2校が30名超、他は10～20名台（令和14年）		定員に近い人数になることがある (状況によって、T.Tや習熟度別授業などの工夫が求められる)			
	教科担任の複数配置	現状のまま		組み合わせ次第	主要5教科に複数の教員を配置しやすい (教員同士の相談がしやすい・校外の研修に行きやすい)		
	学校と地域のつながり	地域単位のつながりが維持される		学校がなくなった地域とのつながりに課題 (一方で、複数の地域の協力者を共有することは可能（職業体験先が増える等）)			
子供たちの多様化	教員と生徒との距離	概ね現状が維持される (生徒一人ひとりに目が行き届きやすく、きめ細かな指導が可能)		教員あたりの生徒数が多くなる (一方で、色々な教員の目で生徒を見ることは可能)			
	児童生徒どうしの人間関係	小学校までと同じ集団となる中学校が多い 異年齢の人間関係を構築することも容易		小学校までの集団が複数合わさる			
教員負担の増大	国による部活動改革の動きがあり、今後（令和5年度以降）、部活動を取り巻く環境が変化していくことが想定される (具体的なイメージ：部活動改革の第一歩としての休日の部活動の段階的な地域移行、合理的で効率的な部活動の推進（合同部活動の推進、ICT活用の推進など）)						
	部活動	現状のまま		解決は一時的	現状よりはよくなるが、限界はある (チーム編成がしやすく、種類も増やせる)		
	校務分掌の負担	現状のまま 小学校教員との連携には可能性あり		教員一人あたりの分掌数は減るが、負担が減るとは限らない (体制は厚くなる)			
デジタル化の遅れ	北杜市立小中学校教育情報化整備計画に沿ってデジタル環境の整備が進んでいる						
	兼務・非常勤	デジタル化によって他校にいても指導できるようになる（統合で兼務・非常勤がなくなることはない）					
感染症リスクへの備え	-	教室が密になる学校がある (今後起こり得る新たな感染症に備えるため、デジタル化の推進等、非常時における子供たちの学習機会の確保に向けた取組みが求められる)					